



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

近隣外交は毅然とすべし

秋の総裁選を前に報道各社は「踏み絵」のように総裁候補と思われる議員に「靖国神社の参拝」を質している。さらに民主党の小澤代表は靖国問題には「秘策」があると豪語し、その策を尋ねれば、政権を執ったとき明かすと理解に苦しむ発言が続くのである。

一体、靖国参拝問題は本当にわが国の最重要課題なのだろうか。田中内閣時代の日中国交回復以来、折々の総理大臣や閣僚は何の疑いもなく毎年、靖国に参拝してきた。

それは、日清・日露の戦い以来、国家の命により、出征して戦没された多くの御霊に対する慰霊であり、同時に非戦の誓いでもありました。戦後のわが国ほど与えられた民主主義とはいえず、G7の中で最も「平和と民主主義」を基調とする政治路線を歩んでいる国はない。

理解できない中国政府

処で、日中友好条約の第1条には、両国の尊厳を尊重し、その内政に干渉しないことを明記しているのである。

さて、この3月末、中国政府に招かれた橋本龍太郎元総理をはじめ、自民党と7団体の代表が訪問の冒頭、胡錦濤主席は30分に亘って、「両国の疎遠の原因は小泉総理にある」と非難したと新聞に報道されていた。

この席上、日本側の代表団からその一方的非難に対し一言の反論もなく、ただ唯々、諾々として主席の講話を聞いていたという。

申すまでもなく今日の中国の実情は長期に亘る共産党の独裁政権下にあつて、年々拡大する貧富の格差、全国各地に広がる公害問題、構造的官僚の汚職、特権階級のための閥閥政治など数えあげればきりが無い程の厄介な内政問題を抱えている。

5月16日の静岡新聞の「興竜の実像」には次のような記事があつた。「・・・共産党の革命と中華人民共和国の誕生をささえた農民が、今や全国で年間約十万件に膨れ上がった暴動と抗議行動の主役となった・・・」。更に翌日の新聞には胡錦濤指導部は03年、04年と相次いで反政府的報道を規制、人権活動家や法律家の支援を排除したと書かれていた。

韓国の反日外交

一方、お隣の韓国も盧武鉉大統領になつて以来、対日外交は極めてえげつない方向に走り続けていると云わざるを得ないのである。

今更申し上げることもないが、韓国政府はこれまで、内政に対し国民の不満が惹起した折には必ずその矛先を「悪者日本」に向け、教科書問題や靖国問題を取り上げ、声高にこれを非難するのが常であつた。

殊にこれまで水面下にあつた「竹島」問題を突如取り上げた盧大統領は、恰もわが国が覇権主義者であるがごとく宣伝を韓国民に流布し、山積する内政問題の「猫騙し」策として韓国民のナショナリズムを煽ってきたところである。

嘗て鬱陵島と呼ばれていた「竹島」は明治38年に島根県に編入され、戦後、李承晩大統領による一方的線引き、所謂「李承晩ライン」によつて、韓国の主張する領海内に入つてしまつたのである。恐らくわが国は、韓国のこの一方的行為を問題化せず、平和裏に解決する手段を模索して今日に至つたと考える。

無責任な評論家は「世界中、何処においても近隣国とは必ずいざごことがある」とブラウン管から私達に教えてくれる。

利害の相反する隣国同士であれば一面致し方ない所でしょうが、中韓両国の最近の動きは私には全く納得できるものではない。

やっぱり変だ、「駿河」と「葵」

最近お会いする方々から本市の区名として「駿河区、葵区」を命名したことに疑問や不満の声を屢々聞きます。決定した当初は自分の意向に反するが故に非難の声も多かったのですが、ここに来ての不満は明らかに生活体験から生まれたものでしょう。

その理由は先ずこの「二文字」は誰もが常時利用したり接したりする漢字ではないこと、次に書く事も読む事も意外に難しい、特に遠方の方に電話で自分の住所を説明する際は極めて困難です。

恐らく区名を選考した委員は、自分自身の街ですら「駿河」も「葵」も馴染みの漢字と理解されたでしょうが、例えば近年、「駿河銀行」が「スルガ銀行」に社名を変えましたが、その理由が県外の方の中にはこの漢字を読めない人が意外に多かったからである。そのことを選考委員の皆様が知っていたら、「駿河」を採用することはなかったでしょう。また「葵」も読むには読めても書くには些か難しい文字です。

ご案内のように、この区名の選考過程において、静岡市は当初、市民から一般公募したところ、案の定「北区」と「南区」が圧倒的な投票結果でした、にも拘らず委員会はこの二案は「平凡」との理由で捨てられ、結局現在の区名に決定したのです。

しかし、その行為は余りにも短絡かつ軽率だったと言わざるをえません、なぜなら委員会には市民の投票結果を反故にする権限は委員会にはないはずで、委員会が公募を採択した以上、如何なる結果が出ようとそれを採択するのが当然です。

今日、政令都市の多くに東西南北の方向を表す区名を見ます。例えば南区は札幌、横浜、名古屋、京都、広島、福岡に存在しております、さらに私達は以前から「駿南、駿北」と静岡を二分して呼称してまいりましたので極く自然な表示だと考えます、その点、誠に残念な選択と今でも思うところです。

これも読めない「建穂」の町名の歴史

たきょう

服織(羽島)の奥に建穂という550世帯を数える大きな町内会があります。ここは8世紀に行基が中興(注)したと云われる真言宗の建穂寺の門前町として発展してきましたが、明治になって廃仏毀釈の令によって衰退、さらに火災によって栄華を誇った嘗ての面影は消え、そのまま廃寺となってしまったのであります。今は2体の金剛力士像が観音堂に淋しく立っているのみであります。

ご案内でしようが、4月の浅間神社の廿日会祭において開催される稚児の舞は、建穂寺の舞楽を奉納したことに始まりました。

ところで、「建穂」をどうして「たきょう」と読むのでしょうか。そこには驚きの歴史が刻まれているのです。

私は昔から「アイヌ」に関心を抱いて折々に県立図書館などで勉強してまいりましたが、この建穂もその名の源流は「アイヌ語」であります。即ち「トキウ」が永い歳月の間に「タキョウ」と変化する中、8世紀になって、大和朝廷は地名を「漢字二文字」で表すよう全国に布告、これに基いて、地域住民の信仰を集めていた「建穂寺」に倣って周辺を「建穂」と命名したと考えます。

さて、「トキウ」とはアイヌの言葉で「葦の生える沼」の意味で、葦の生える沼は何処にもあります。それ故、全国には「たきょう」という地名は沢山あり、田方郡の田京も「トキウ」から誕生した地名です。

このように書きますと、『アイヌ』は北海道にすむ少数民族では、と多くの皆さんは疑問に思われますが、実は、学校の教科書の中で「アイヌの人々はその昔、日本武尊らの征討によって、北海道に逃れた」というアイヌ研究の誤りが結果として今なお「アイヌ＝北海道」を国民の脳裡に植え付けてしまったのであります。しかし、実際は数千年前より中部山岳地帯から東北、北海道一帯に「縄文文化」が栄えておりましたが、この人々こそ、私達の先祖であり、敢えて言うなら「原

一寸一言

私の雑記帳から

野鳥のひみつ

シンゴスコープ4月号の「静岡の歴史」で紹介した鳥人「浮田幸吉」が、空を飛ぶことに挑戦する切っ掛けとなったのは、近所の寺の境内に遊ぶ鳩からでした。幸吉の最初の挑戦は橋の欄干から飛び降りて「失敗」さらに「所払い」となった訳ですが、物理学の発達した現代に生きる私達には幸吉のような突拍子もない発想は中々生まれません、また伴う疑問も思い浮かばないのです。

そこで本日は、身近な小鳥に焦点をあて、幸吉の失敗を検証してみます。駿府公園にも沢山の鳩や椋鳥が遊んでおります。ところがその鳥の死骸を見ることは殆どありません。一体何処に行ってしまったのでしょうか、貴方はその事について考えたことはありませんか。そこで、空を飛ぶための条件を考えて

日本人」と表現すべき人々であります。この点については、私は以前『私達は「アイヌ」の末裔である』という小冊子を起草しましたので、ご希望があればお送りします。驚くことはありません、駿河もアイヌ語の「スルグ」から生まれた地名、即ち「スルグ」とはトリカブトを意味します、今日も井川地域には紫の花を持つトリカブトの群生が見られます、更にまた私達の周辺には「アイヌ」の言葉と思われる地名は数多くあります。それにしても壮大な伽藍を持つ「建穂寺」を焼失したことは本市の文化、観光にとりまして誠に残念と言わざるを得ません。(注) 中興・・・いったん衰えたことを再び盛んにすることまたは、その人。「建穂の」

見ましよう。

実は、飛行するためには当然のこと、その体は軽量でなければなりません、そのために鳥の骨は空洞になっており、死後は腐って土に返るのが非常に早く、更に昆虫などの餌となれば瞬時に消えてなくなりません。また、公園にはご存知のように野良猫が住み、常に虎視眈々と獲物を狙っており、弱った鳥は彼らの絶好の餌食になってしまいます。

またカラスは共食いの習性をもっており、多く棲みつく安倍川の河原にもその死骸を見つけたことはあります。

恰好だけ鳥の羽を真似た翼をつけて、飛行を試みた幸吉の失敗は将に「鵜の真似する鵜」の喩を地で行ったものでした。

鳥が空に羽ばたくことができるのは、結局、自身の体が軽量かつ幅広い翼を持っているから可能なのです。



彩時記

雨傘に思う。

そろそろ梅雨。傘の出番がぐっと増える季節です。雨の日の情景で近年ほとんど見かけなくなったのが、「相合傘」と、傘を手にしてのお迎えです。相合傘は男女が一本の傘に入る様ですが、かつては知人同士でも傘を忘れた相手を思いやり、一つの傘で肩を寄せ合って帰路につくことが珍しくありませんでした。そして夕方の学校や駅には、傘を片手に家族を迎えに行くお母さんや子どもの姿…。

しかし最近では、相合傘をしなくても、お迎えを頼まなくても、傘はコンビニで手軽に買えます。そして駅に迎えに来る家族のほとんどが車なので、傘がなくても雨に濡れることはありません。今のほうが便利でいいのですが、雨の日ならではのほのぼのとしたコミュニケーション.. という点では少し寂しいですね。

急な雨だからと慌てて買い、晴れてくると出先や乗物の中に置き忘れてしまう。大切な生活道具なのに、雨の日と晴れの日でこれほど扱い方が変わるものもないでしょう。梅雨の合間の青空の下、いつも使っている傘をねぎらい、きれいに手入れしてあげてはいかがでしょうか。

歴史講座のお知らせ

町内会の集會、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。嬉しいことに最近、グループや町内会などで『天野進吾』の歴史講座の要望が増えて参りました。このSHINGO-SCOPEの郷土史が好評ですのでその現れかもしれません。どうぞ、お気軽にお声掛けください。